

司式 杉山昌樹牧師

奏楽 杉山友実子姉

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 1 : 1

1. われら^{しゆ}主をたたえまし、きよき^{みな}御名あがめばや、くる日^{ひごと}ごとほめうたわん、
 神^{かみ}にまし^{おう}王にます^{しゆ}主のみいつたぐいなし。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 罪の告白①

神よ、わたしを^{あわ}憐れんでください。御^{おん}慈^{いつく}しみをもって。深い^{ふか}御^{おん}憐^{あわ}れみをもって、背^{そむ}きの罪^{つみ}をぬぐい去^さつ
 てください。わたしの^{とが}咎^{とが}をことごとく洗^あい、罪^{つみ}から清^{きよ}めてください。わたしは^{とが}咎^{とが}のうちに^う産^うみ落^おとされ、
 母^{はは}がわたしを身^みでもったときも、わたしは^{つみ}罪^{つみ}のうちに^あったのです。わたしを洗^あってください。雪^{ゆき}よりも
 白^{しろ}くなるように。神よ、わたしの^{うち}内に^ま清^{きよ}い心^{こころ}を^{そうぞう}創^{あたら}造^たし、新^たしく^{れい}確^{かく}かな^{すく}霊^{たま}をさ^よずけてください。救^{すく}いの喜^{よろこ}び
 を^{ふた}再^あび^あわ^あた^あしに^あ味^あわ^あせ、自^じ由^{ゆう}の^{れい}霊^{れい}によ^ささ^さて^さ支^しえ^えて^えく^くだ^ださ^さい。主^{しゆ}よ、わたしの^{くちびる}唇^{ひら}を開^{ひら}いて^{ひら}く^くだ^ださ^さい。この
 口^{くち}は、あ^{さん}な^びた^うの^う賛^う美^たを^う歌^たい^たま^たす。主^{しゆ}イエス・キリストの^{かみ}御^{おん}名^なによ^よつ^つて。アーメン。(詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何^な者^{もの}をも神^{かみ}として^はな^らな^い。
2. あなたは^{じぶん}自^じ分^{ぶん}の^{きざ}た^めに^{きざ}刻^くんだ^{ぞう}像^{ぞう}を^{つく}造^{つく}つて^はな^らな^い。それ^にひ^れ伏^ふして^はな^らな^い。
 2. それ^に仕^{つか}えて^はな^らな^い。
3. あなたは、あなた^{かみ}の^{しゆ}神^{かみ}、主^なの^な名^なを、み^とだ^りに^{しゆ}唱^{とな}えて^はな^らな^い。主^{しゆ}は、
 み^な名^なを^とみ^とだ^りに^な唱^{とな}える^{もの}者^{もの}を、罰^{ばつ}し^{ない}で^はお^かな^い。
4. 安^{あん}息^{そく}日^{にち}を^{せい}お^ぼえ^えて、こ^をれ^をを^{せい}聖^{せい}と^せよ。
5. あなた^{ちち}の^{はは}父^{ちち}と^う母^うを^や敬^やえ。
6. あなたは^{ころ}殺^{ころ}して^はな^らな^い。
7. あなたは^{かんいん}姦^{かん}淫^{いん}して^はな^らな^い。
8. あなたは^{ぬす}盗^ぬん^ずで^はな^らな^い。
9. あなたは^{りんじん}隣^{りん}人^{じん}につ^ぎい^て偽^ぎ証^{しょう}して^はな^らな^い。
10. あなたは^{りんじん}隣^{りん}人^{じん}の^{いえ}家^{いえ}を^むさ^ぼつ^ては^なら^ない。隣^{りんじん}人^{じん}の^{つま}妻^{つま}、ま^たす^べて^{りんじん}隣^{りん}人^{じん}
 の^{もの}を^むさ^ぼつ^ては^なら^ない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 35 : 1

1. 十^{じゅう}字^じ架^かの^うえ^に 屠^ほら^れた^まい^し こ^よな^くき^よき ^{かみ}み^{かみ}神^{かみ}の^こひ^つじ、
 わ^がた^め悩^なみ^を し^のび^たま^いし ^{めぐみ}み^{めぐみ}恵^{めぐみ}み ^げげ^にも^とう^とし。アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 17 復 活 節 第 四 主 日 主 の 着 座

全^{ぜん}能^{のう}の^{ちち}父^{ちち}なる^{かみ}神^{かみ}さ^ま、あ^なた^は、昇^{しょう}天^{てん}さ^れた^{しゆ}主^{しゆ}イ^えエ^すを、あ^なた^の右^{みぎ}に^ざ座^ざす^{おう}王^{おう}と^し、あ

らゆるものが、主イエスの御名にひざまづくようにされました。

それゆえ、贖い主イエス・キリストは、万物の主、とりわけ、教会と国家の主であられると告白します。主がすべての権威と権力を打ち滅ぼして、永遠の御国をあなたにお渡しになるとき、宇宙に対するその主権と支配は、万人の目に明らかになることを覚え、御名を心から賛美します。

(ルカ22、フィリピ2、「教会と国家」四)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 甲信地区 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ルカ24章46～53節(新約聖書161頁)

説教・祈祷 「どこまでも進む救い」杉山昌樹牧師

* 賛美歌 86:1、3

1. 民よ、手を打ちならせ、主に向かい高らかに喜びの声あげよ。

げに、全地治るはいと高き神なる主、恐るべき王なる主。

3. 喜びの声の中、角笛の音と共に、主は昇り行きたもう。

われらの主ほめまつれ。げに神は全地の主。歌もて、告げ知らせん。

* 主の祈り 祈祷書1

天にましますわれらの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64

みめぐみあふるる 父、み子、みたまの ひとりのみ神に みさかえつきざれ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老(司会・受付 次週:門脇献一長老)

本日 受付 1階:佐藤紀子・古澤迪子執事 2階:大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音: 森川莞太

次週 受付 1階:那珂信之・星野房子執事 2階:藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音:大日南信也

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

ルカ24：46-53新しい「どこまでも進む救い」

なぜイエスは旧約を

今日の聖書は少々唐突な感じで始まっています。なにしろ「言われた」です。イエス様が語り始められた、という言葉が最初に来ています。何を言われたのか、といいますと聖書にこう書いてある、と語り始められたのです。このひとつ前の節を見ますと「聖書を悟らせるために彼らの心を開いて」とあります。聖書を知ることがとても大切だということがこれからもわかります。それだけではなく、もう少し前のいわゆるエマオ途上と呼ばれる二人の弟子のちょっとした旅行の記事でも、イエス様は、「聖書全体にわたり、ご自分について書いてあることを説明された」（27節）とある通りです。復活されたイエス様は弟子たちに聖書を語られた、しかも、ただ語るだけではなくしっかり理解させようとしたのです。ではなぜイエス様はなぜ、これほど徹底して聖書について語っておられるのでしょうか。今日はこのことをまず確認したいのです。

約束は実現した

なぜイエス様は、聖書について情熱を込めて語られたのか、答えを先取りしてしまいますと、それは、神様の愛がわかるから、です。では何で聖書を読むと神様の愛がわかるのかです。それは、神様が何をされたのかがいちいち記されているのが聖書だからです。誰でもそうですけれども、ある人に愛があるかは、目に見えません。でも、その人が何をしたかを見れば愛があるかどうかはよくわかります。聖書、すなわち、この場合の聖書は言うまでもなく、私たちが旧約聖書と呼んでいるものです。これについては44節で「モーセの律法と預言者の書と詩編」とわざわざ書いてあります。要はイエス様の時代に聖書と呼ばれていた書物全体から、神様が今まで何をされてきたのが全部わかるのです。言い換えますと、そもそも、神様はいったい何を考えてこの世界を動かしてこられたのかが、聖書からわかるのです。そして、イエス様がその中でどんな役割を持っておられるのかもわかるのです。そのような神様が何をされたのか、という問いの中でも特に大切なのが、約束です。神様はアブラハムに約束し、モーセに約束し、ダビデに約束されました。そのような多くの約束の根っこにあるのがアブラハムとの約束です。

イスラエルの始まり

それで、このような神様の約束をぎゅっとひとまとめにしたと言えそうな言葉が申命記にありますので読んでみます。「あなたはあなたの神、主の前で次のように告白しなさい。「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、わずかな人を伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強くて数の多い、大いなる国民になりました」（26：5）。これは、出エジプトの後の時代、イスラエルの民が約束の地に入って収穫を得たときに、神様を礼拝する、そのような場面で告白する言葉として語られたものです。神さまの前で自分はこんなものです、と申し上げる言葉です。その言葉が神様から与えられています。これも実はとても大切なことで、私たちは自分は何者なのかがしっかり腑に落ちていませんと、どうしても落ち着かないのです。それで申命記の言葉に戻りますけれども、「滅びゆく一アラム人」とは、おそらくアブラハムのことです。実際の所、創世記の11章を見ますと、アブラハム、そのころはアブラムと呼ばれていましたが、彼は子どもを持たない者、将来の展望を持たないものとして登場しています。ところが、この滅びに定められていたようなアブラハムに神様が声をかけられたのでした。そこで約束されたことは、子孫と土地でした。しかし、彼への祝福はそれで終わるものではありませんでした。むしろ、もう一つのこと、「地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」（創12：3）という約束が大切です。

イスラエルの役割

神様がご自身から声をかけた人、その人から出る民、民族によって成し遂げたいこと、それは、可能な限り多くの人を、ご自身の祝福へと招くことです。これが聖書を貫く神様の行動の主な動機です。イスラエルの民が選ばれている、ということはこのような神様の御心に対する責任を持っている、と言い換えることもできます。それでもう一度話を福音書に戻しますと、イエス様がわざわざ弟子たちに

聖書について語る、それをしっかりとわからせるために、彼らの心を開いて、これでもかと語り掛けているその理由は、このようにして、神様は私たち人間を愛しておられ、そして、そのような神様の愛を地上で実現していくために、イスラエルの民を、ペテロたちもまたその一人でしたが、彼らにはしっかりとした役割がある、はるか昔から、あなたたちはそのために、神様に招かれていたのだし、今もその役割の中にいるのだ、ということをはっきりとさせるためです。しかもそれはなお続きがあります。或いは頂点があるのです。

新しい時代としるしとしての復活

イスラエルの役割を完成させる存在、それは言うまでもなくイエス様です。それは、聖書に預言されていたメシア、救い主がいよいよ明らかに登場した、ということをごここでは改めて確認しています。それはあの26節で「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』とある通りです。おそらくこのところの旧約聖書は、イザヤ53章、ホセア書6章、詩編16章が意識されているのでしょうけれども、個別の箇所というよりもむしろ、人々が祝福にあずかることができるようにする、そのカギを握っているのが、イエス様なのだ。ということが重要です。その場合に、特にわたしたちが目を止めたいことがあります。それは、「死者の中からの復活」です。イエス様が復活された、それを祝うのがイースターで、私たちにとってそれは自明のことにようにすら思えます。けれども、このイエス様のご復活こそ、私たちの信仰のすべてです。パウロはこのことをコリントII5章でそれこそ口を酸っぱくして力説しています。或いは、いわゆる書簡ローマ書、ガラテヤ書、等多くの書簡の書き出しでほぼ必ず、主イエスのご復活を取り上げています。なぜならこの復活という事実こそが、私たちのあり方を根本的に変えていくからです。

約束された力

復活されたイエス様から与えられる霊によって私たちは変えられるのです。それは来週ご一緒に読みます、ペンテコステの時に始めて弟子たちに与えられたあの力強い霊のお働きです。そこにおいては、当たり前だと思っていることがひっくり返るのです。たとえば、聖霊なる神さまは、旧約聖書においては、もっぱらイスラエルの民と共に働かると、考えられていたようです。実際の所、この時、すべての民に向けて派遣された聖書に書いてあるペテロでさえ、当初はそのように考えていたふしがあります。使徒言行録10章で登場します百人隊長コルネリウスの家に派遣されて語っていた時の出来事を記す箇所にこんな言葉があります。「聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て大いに驚いた」（使徒10:45）。この時すでにペテロは神様によってそれこそ悔い改めさせられていたのですが、一緒に居たユダヤ人たちはこの出来事に大変驚いています。それははっきりと、時代が変わったことを示している出来事です。聖霊のお働きにおいて、具体的にそれに触れた人の思いがひっくり返されるのです。そのような時代の変化の明確な区切り、それがイエス様のご復活であり、また、イエス様の昇天です。その焦点を前にしてなお確認したいことがあります。それは悔い改め、という言葉です。

我々はこれを証言する

47節で「罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によって」と続いています。イエス様のお名前によって悔い改めが始まるのです。私たちは、罪の中に、死の中に閉じ込められていた者でした。いや、今も実は、このような死の力に騙されているかもしれないのです。死は仕方がないこと、死は避けられないこと、誰でも必ず死ぬ、人間は誰でも死亡率百パーセントだ、と言ったりします。確かに生物学的にはその通りと言えるかもしれませんが、しかし、私たちは、この肉体の死の先に命があることをイエス様によって示されているのです。死の束縛から解放される世界があることを示されているのです。罪の結果としての死のなおその先があることを知っているのです。その点で、実は「悔い改め」とは、そのような命の存在を知っていくことです。この所の悔い改めは、旧約聖書にしるされたイエス様のご復活がわかるようになることです。「聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」とあるのはその意味です。心が根本から変わるという意味です。そして、このようにして、私たちの心が根本的に変えられるということが、あらゆる民において起きていくと、47節の後半で語られているのです。イエス様の名

があらゆる民に宣べ伝えられるのです。それはエルサレムから始まりました。そして今、こうして私たちの所にまで届いています。そしてさらに、今、私たちも、弟子たちがそうであったように、このことの証人となるようにと招かれています。

天に挙げられるというしるしを喜ぶ

ところで、今日の聖書を読みまして、とりわけ50節以下を読みまして感じるのは圧倒的な明るさです。雰囲気が明るいのです。希望に満ちているのです。50節では、イエス様がベタニアのあたりで、弟子たちの前で、彼らを祝福し、そのままの姿で天に挙げられた、というその様子が描かれています。それは出来事としては、別離です。イエス様と弟子たちは分かれてしまったのです。しかし、ここでは全く湿っぽい雰囲気はありません。むしろ、「大喜び」という言葉が目につくのです。それは、新しい時代に生きるものの喜びです。イエス様によって切り開かれた時代に生きるものの喜びです。そしてこの新しさは、決して色あせないのです。なぜなら、この喜びにははっきりとした保証があるからです。その保証とはイエス様のお言葉です。「わたしは、父が約束されたものをあなた方に送る」（49節）とある通りです。それは、特別な働きを私たちにもたらします。「高いところからの力に覆われる」とあります。わたしは神秘主義者ではありません。でも、この「力に覆われる」という言葉は、素敵だと思います。これを新しい共同訳聖書では「高いところからの力を身に着ける」と訳しています。神様ご自身を身に着ける、そんなイメージです。それが約束されているのです。

神をほめたたえる

この時の弟子たちこの時の思いを何に譬えたらいいでしょうか。それは、成功することが約束されている人と言ったら言い過ぎでしょうか。もちろん、この後の最初の弟子たちの地上での歩みも、そして私たちの教会の歩みも、ただただ能天気なものではありません。しかし、それでも、私たちは新しい時代が始まっている、確かなしるしを、聖書から確かめられます。それはイエス様が手をあげて祝福されたあとで、弟子たちを離れ、天に挙げられたその様子を知ることによってです。それはまた、イエス様の天におけるご支配がはじまり、そこから聖霊なる神さまが私たちに遣わされるようになった、というしるしです。

どこまでも進む救い

そして私たちは、自分がどのような状況にあったとしても、人生のどのようなステージに差し掛かったとしても、間違いなく、この神様のご計画の中に位置づけられています。神様が人々をご自身のところへと集められる、祝福を広げていかれる、その御業の中に、この教会があつて、そして私たちそれぞれがこの教会の中にあつて聖霊なる神さまを身にまとして、教会のかけがえのない体の一部としてのその一人となっているのです。

祈り

天においてすべてを治められる父なる神さま。尊いみ名を賛美いたします。私たちはもはやうなだれていません。むしろ、天を見上げて、あなたの約束してくださっている御霊なる神の訪れをいつも期待します。そこに私たちの希望があります。たとえ私たちの心身が困難の中にあつても、なお、あなたの命によって支えられていることを信じます。神様あなたのお働きをこの教会とそこに集います私たち一人一人の中で、ますます明らかにしてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン